

学部内での諸活動の報告

情報システム研究会とFD研修報告会

1. あらまし

情報科学部では、学部内の教育を改善するため、いくつかの試みが行われています。

まず、学生・教員が協同して研究を進めて行く最初の試みとして「情報システム研究会」を平成15年度から発足させました。その概要を報告します。

2. 情報システム研究会

情報科学部の様々な情報システムの改善・改良・拡張を、学生と教員とで研究するグループとして情報システム研究会が発足しました。現在、院生2名、3年生20名、2年生4名、1年生4名と教員と実習助手OBのメンバーからなり、メールによるオンラインでのディスカッションや12号館3階の実験室での研究やミーティングを行っています。

内容としては、サーバープロジェクト、データベースプロジェクト、電子鍵ロッカープロジェクト、講義記録システムプロジェクトといった複数のプロジェクトが平行して活動を始めています。

このような活動に注目する企業も現われはじめ、学部の教育・研究に寄与するだけでなく、社会に出てもこの経験が役立つのではないかと期待もあります。

情報科学部では、情報システム以外の分野でも同種の研究会を設置して、学部教育・研究に役立てたいと考えています。

3. 情報科学部FD研修報告会

現在、日本中の大学でファカルティディベロップメント(FD)が叫ばれています。日本語では教育改善と訳されることが多いのですが、大学教育を教員・大学の協力によって改善して行こうという取り組みです。

日本では、幼稚園から高等学校に至るまで、学校教育に携わる教員には資格取得が義務付けられ、教員免許を持っていないと原則として教壇に立つことはできません。一方、大学教員には特に免許は必要なく、教育技術の向上は教員の自己研鑽に任されています。

このような安易に流れそうな状況下では、教員自らの意思によって、不断に教育方法・手段を改善する努力が必要なことは言うまでもありません。大学でFD活動が必要とされる理由の一つはここにあります。

九州産業大学でも平成15年度からFD委員会を発足させ、全学的にFDに取り組んで行く体制が整いました。

情報科学部では、以前から各教員が講義記録システムを利用して個別に教育改善に取り組んできました。情報科学部に設置された講義記録システムは他大学でほとんど例を見ないもので、元々は学生の皆さんの復習の便宜を図って導入したのですが、教員が自分や同僚の講義を視聴することにより、他人の長所は取り入れ自分の短所は修正するためにも役立つことがわかり、個別に教育改善に利用していました。

情報科学部では、これらの個別の経験の上に立って、さらに組織的に教育改善を行うために情報科学部FD研修報告会を発足させました。この研修報告会は教員の授業経験を元に議論を行い相互に啓発を図るもので、月1回定期的に会合を開いています。

既にカリキュラム改善など、さまざまなアイデアが提案されており、実現できるものから実現して行く予定です。